

様式1

令和2年度 学校評価表

尾道市立三小中学校

学校教育目標		夢チャレンジ ～かしこく やさしく たくましく～			
a ミッション	小中連携を核とした確かな学力定着の取組の深化と発信		a ビジョン	「学んでよし 働いてよし 通わせてよし」三方よしの学校	

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画						
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案			
				g 達成値	g 達成値	h 達成度	i 評価	イ		ロ	ハ						
自分の課題や現状を認識し、進んで知識や情報を得て、粘り強く学びに向かう児童の育成	自らの学びを自覚する児童の育成	話を用いて自分の考えを分かりやすく話させ、学びを自覚させるような学習の振り返りをさせる。	児童アンケート「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるような発表の工夫をしている。」「学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』『学習の方法がうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えている。」について肯定的評価をした児童の割合	75%	76.1%	78.5%	104.7%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく話す項目では77.1%、振り返りについての項目では79.9%であった。 ・分かりやすく話す理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるような発表の工夫をしている。児童の達成度はばらつきがあったため、各学年での自覚学習の姿や、具体的な指導について指導を行い、共通理解を図った。その中で、話し手だけではなく、聞き手を育てていくことや、高学年に向けて根拠を明らかにして自分の考えを述べることの重要性が共有できた。 ・振り返りについては、アンケート項目の例文以外に「どんな力が付いたと思うか。」と問いかけたり、振り返りの項目を具体的に示したりするなど、学級に応じた工夫が見られた。 	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをわかりやすく話すことができる児童の育成を目指し、先生方の取組の成果が表れています。今後も、継続指導をお願いします。 ・学級の達成度にはばらつきがあったことについて原因分析を行い、指導法の改善を行っていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けて、具体的な目指す児童の姿を再度交流し、教室掲示するなど、児童にも分かりやすい形で示す。 ・アンケートの振り返りの項目を精選し、教師、児童ともに振り返りについてさらに理解が深まるようにする。 			
	進んで知識や情報を得ようとする児童の育成	読書や新聞に親しむことで学びの土台をつくり、確かな学力の基盤となる国語の定着度を伸ばす。	国語の単元末テストの通過率	<table border="1"> <tr> <td>低学年 90%</td> <td>低学年 84.4%</td> <td>低学年 84.8%</td> <td rowspan="2">96.0%</td> <td rowspan="2">B</td> </tr> <tr> <td>中高学年 85%</td> <td>中高学年 87.3%</td> <td>中高学年 83.2%</td> </tr> </table>	低学年 90%	低学年 84.4%	低学年 84.8%	96.0%	B	中高学年 85%	中高学年 87.3%	中高学年 83.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・学級によって学習の定着度にはばらつきがあり、児童の実態把握や個別の指導に課題が見られた。 ・3学期からドリルタイムが始まり、反復練習や、学習の足跡の掲示などの指導の工夫により、学力の定着度は高まっている。 	2	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の学習状況が心配である。 ・家庭の教育力の低下もあると思うが、学校で読み書き計算を繰り返し、学習内容の定着を図ってほしい。
低学年 90%	低学年 84.4%	低学年 84.8%	96.0%	B													
中高学年 85%	中高学年 87.3%	中高学年 83.2%															
「学んでよし 働いてよし 通わせてよし」三方よしの学校づくり	何事にも粘り強く取り組む児童の育成	気持ちのよい挨拶をする児童の育成	「いつでも・どこでも・だれにでも」気持ちのよい挨拶をすることを習慣化させる。 (4月～7月)自分からたくさんの人に挨拶をする。 (9月～1月)自分から相手の目を見て挨拶をする。	80%	67.7%	83.5%	104.4%	A	<p>方策を「たくさんの人への挨拶」から「目を見て気持ちのよい挨拶」へと変化した児童会の取組、種々の挨拶、学級担任の指導を中心に目を見て挨拶することを奨励してきた。6年生を中心として、学校全体に対してきてきている。課題として、求書に及ぶ挨拶ができていないところがある。できていない児童のよい点を積極的に評価しながら、さらに浸透させていきたい。</p>	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での挨拶の指導はできていると思う。 ・家庭・地域の協働体制作りが今後の課題です。 ・今後は、目標としての挨拶ではなく、自然にできる人間関係作りにも視点を持ってほしい。 	<p>校内でできている児童が登下校でできるようになることや、来校者へ会釈をしたり、目を見て挨拶をしたりできるようにすることや、目標としての挨拶をしてほしい。登下校指導として、一斉下校の全体指導の場を活用し、意識できるようにしたい。</p>			
	最後までやりきる児童の育成	学期の目標、係活動について「できたこと」「うまくいかなかったこと」「来月にに向けての目標」の振り返りを毎月行い、自分に与えられた役割や自分で決めたことを最後までやりきるという意識を持たせる。	児童アンケート「難しい問題でもどのような答えになるか粘り強く考えている」「自分に与えられた役割を最後までやりとげている」「自分の決めためあてを守ることができた」と肯定的に答えた児童の割合	80%	89.0%	90.6%	113.3%	A	<p>「学習面」、「係活動」、「自分の決めためあて」の3観点において取り組み、どの項目についても達成できた。ただし、「自分が決めためあてを守る」ができていない児童がおり、その項目について振り返りを行い、日々の取組を通して振り返りを行っている児童が少なくないことを分析した。その他のアセスアンケートでは、「学習意欲」と「生活満足度」の項目が低かったため、学級集団へのアプローチ以外にも支援を要する児童に対してピンポイントで指導や支援を行っていく。</p>	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会の取組として、校内ウォークラリーを行ったことはとてもいいと思います。コロナ禍でいるような行事ができなかったが、縦割り班で協力し合うことができたと思う。 ・粘り強さの育成を目指し、自分の目標や役割をやりきらせることは大変いいことだと思います。 	<p>週単位で児童に評価させるなどの取組を行うことで児童自身に意識させ、めあてを守ることのできる児童の割合を向上させた。めあてを守らせることで児童自身が決めることができたという自己肯定感を高められるように、意識して評価していく。</p>			
進んで体力を高める児童の育成	握力の向上を目指す児童の育成	タオルチャレンジ実施の徹底 ・放送による実施の呼びかけ ・正しい実施方法の指導・呼びかけ	4月に行う握力の計測時からの数値が向上した児童の割合	90%	99.5%	88.6%	98.4%	B	<p>4月に行う握力の計測時から握力の数値が向上した児童の割合は、88.6%であった。上半期の反省から、「一人タオルチャレンジ」の取組を放送から、各教室に出向いて指導する方法に変更した。取組内容を簡易化したことにより、各教室の取組の実施状況もほぼ100%で児童だけでなく教員の意識も向上したと考えられる。しかし、コロナ禍での実施では、十分に取組が進まなかったことと、来年度も新たな生活様式に合わせて取組内容を精選し、握力向上に努めていきたい。</p>	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、今まで以上に子供達の体力も低下していると思う。学校で児童の課題である握力の向上を目指すことはとてもいいことだと思ふ。 ・今後は、握力だけでなく全体的に体力アップできる取組が必要と思う。 	<p>緊急事態宣言による一斉休校や不要不急の外出の自粛に伴い、運動の経験も少なくなっている。児童の体力は下降傾向にある。まずは、体力全般の向上を目指す必要があると考える。コロナ禍中であることは限られてはいるが、今行っている取組は来年度も継続して行い、状況に合わせて取組内容を見直ししていく。</p>			
子供を安心して通わせることができる学校作り	不祥事〇を目指す	「働き方改革」を進め、時間と心のゆとりを生む。定期的にヒヤリハット事業の交流を行う。	職員アンケート「自分の職務に充実感を持っている」の肯定的評価の割合	80%	68.4%	94.7%	118.4%	A	<p>「職員アンケートを行うに当たって、「職務に充実感を持つ」とはどういうことか、研修を行った。三小中学校では、遅くまで仕事をする職員が多く、生徒対応や教員の準備等勤務に行き職員が多い。これらは、すべて子供達のためであるというこの意識を持つことで、仕事への充実感と考えることができた。</p>	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で教職員の仕事量が増えている可能性がある。その対応策が必要だと思ふ。 ・時間外勤務時間を少しでも薄らし、心身の健康を考え取組を大切にしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のアンケートによる数値は上がったが、本校は時間外勤務月43時間以下の職員が少ない。働き方改革を進めるために、仕事の効率化、適材適所の人材育成、計画の仕方の段階、行事等の精選による職員の負担軽減など考える必要がある。 			
	学校と保護者との相互理解を深める	職員による情報発信を行い、保護者の学校満足度を高める。	保護者アンケート「安心して子供を学校に通わせている」の肯定的評価の割合	90%	94.0%	90.6%	100.7%	A	<p>保護者アンケートでは、上半期に比べると3%の数値が下がったが、目標値を達成することができた。これは、コロナ禍中でのいるような行事が中止や変更になったが、子供達の健康や安全を守るために、学校がいろいろな取組を行っていることについて理解が得られたからと考える。</p>	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を行い、気にかかるとの生活環境の把握をしっかりと捉えること子どもにしてください。 ・アンケートの結果から学校の努力の成果も欲わります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、コロナ禍はしばらく続くと考えられる。行事の見直しを行い、どのようにしてと実施することができかを模索し、開かれた学校作りを進める。また、保護者の理解を継続していくために、学校の様子を積極的に配信していきたいと考える。 			

【自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
B：80≦(ほぼ達成)<100
C：60≦(もう少し)<80
D：<60(できていない)<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。